

ごあいさつ

安全で安心な 社会インフラが支える 豊かな未来社会の創造に 貢献します。

一般財団法人首都高速道路技術センターは2023年6月1日をもちまして、前身の財団法人首都高速道路技術センターの時代を含め設立40周年を迎えることとなりました。

当センターは当初、首都高速道路公団が進める首都高速道路の建設および維持管理を技術的側面から支援するという趣旨で設立されました。公団民営化に伴い2008年に業務の移管、再編を実施し、2012年に一般財団法人へ移行し現在の姿になりました。当センターが40年間あり続けたことはひとえに関係する皆様方のおかげであると感謝しております。

当センターの設立当時は158kmであった首都高速道路の供用延長は現在では327kmとなりました。中央環状線は全線が開通し横浜環状線の北側部分の整備も完成しました。首都高速道路ネットワークが格段に充実され経路選択等の利便性は一段と高くなりました。

一方、最初の開通から60年が経過し50年以上の路線が3割を超え、構造物の老朽化が進んでいます。2014年に5年に一回の近接目視点検を実施することが法定化され、構造物の老朽化に伴う高速道路の大規模更新・修繕事業も開始されました。安全で持続可能なインフラの管理を目指してi-Constructionを中核としたDXへの取り組みも進められています。

このような環境の中、当センターは首都高の現場で培ったコア技術である鋼橋疲労対策を始めとする道路構造物の調査診断、スマートインフラマネジメントシステム（i-DREAMs®）による道路インフラのアセットマネジメントなどの最先端の技術を担っています。さらには、維持管理の効率化、防災技術の高度化及び加速するデジタル化への対応に向けて構造技術研究所、デジタル・イノベーション研究所を設置し研究開発を行っています。

今後とも基本理念を経営の柱とし、社会環境の変化に対応する技術の研鑽に努め、社会インフラの安全安心に資する建設・維持管理技術の効率化や課題解決に向け努力してまいります。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

基本理念

首都高速道路の建設・管理の現場で培った技術・知見を有効に活用し、更なる創意・工夫を行い進化・発展させ、安全で安心な社会インフラが支える豊かな未来社会の創造に貢献します。